

演奏に
役立つ

One Point Lesson

TRUMPET

トランペット

長谷川智之 はぜがわ・ともゆき



- ◆出身 北海道函館中部高校、東京藝術大学
- ◆所属 東京フィルハーモニー交響楽団
- ◆趣味 温泉、釣りバカ日誌!! (釣りはやったことがない)
- ◆血液型 A型
- ◆星座 射手座
- ◆読者にひとこと 夢を叶えるために何をすべきか考えよう
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

タンギングの練習で舌を鍛えよう!!

こんにちは。夏真っ盛りですね! …突然ですが、夏の果物といえば「スイカ」ですよね? 僕はいつもスイカを食べるときには必ず塩をふります (どうでもよい話ですが…)。塩をふった方がより甘味を感じられるような気がするのですが、みなさんはどうですか? (かなりどうでもよい話ですが…)

さて先月まで、リップスラーの説明などで、舌の動きの重要性については既に触れてきました。舌は筋肉でできていますから、その動きを完璧にコントロールするためには、舌が鍛えられていないといけません。ということで今月は、舌の鍛錬はリップスラーと共に欠かせない練習、「タンギング」を伝授しますよ。さまざまなパターンのタンギング練習で舌を鍛えましょう!

■シングルタンギング

まずは基本のタンギング、シングルタンギングです。発音は「tatatata (タタタタ)」です【譜例1、2】。タンギングの練習ですが一番大切なのは、息の流れを止めないように気をつけることです (タッタッタッタ…みたいにならないように。最初は「dadadada」のイメージの方がやりやすいかも?)。

これができるようになったら、1週間ごとにメトロノーム1目盛りずつでよいので、少しずつテンポを上げていきましょう。音域が上がっていくに連れて、発音を「ta (タ)」→「te (テ)」→「ti (ティ)」にするようなイメージで練習してみてください。

■ダブルタンギング、トリプルタンギング

シングルタンギングは「tatatata」だったのに対し、ダブルタンギングは「takataka (タカタカ)」【譜例3、4】、トリプルタンギングは「tataka (タタカ)」もしくは「takata (タカタ)」と発音します【譜例5、6】。

なぜ、ダブルやトリプルタンギングを練習するのかというと、シングルでは舌つきが間に合わない速いテンポでのタンギングを、ダ

ブル、トリプルで補うというのはもちろんですが、「ta」の発音より「ka」の発音の方が舌の奥が高くなり、高音域を吹いているときの舌の位置に近いため、ダブルとトリプルの練習は、舌の位置を高い状態に保つ筋力をつけるのに効果的であるという意味もあります。

最初はゆっくりしたテンポから練習してください。「ta」と「ka」の音が、同じように聞こえるように気をつけましょう (両方が同じ強さになるように)。そして、やはり息の流れを意識してくださいね (できない人は「dagadaga」から始めるとよいですよ)。

とくに「ka」は発音がハッキリしづらいので、弱くなってしまう人は「ka」のときに息でしっかりとアクセントをつけて、「kha」のような感じにしてみるとよいでしょう (ただし「ta」よりも強くなるように!!)。

今月は譜例を多くしてみましたので、毎日たくさん吹いて、舌をマッチョに鍛えあげてくださいね。リップスラーも忘れずに!

【譜例1】 ♩=60~120

~以上を上げられる音まで

【譜例2】 ♩=60~120

【譜例3】 ♩=80~140

【譜例4】 ♩=80~140

【譜例5】 ♩=80~140

【譜例6】 ♩=80~140